

## 携帯電話の話題他

JJ1SXA/池

最近、山頂で携帯電話が使える山が増えて来ている、有名な高い山の山頂でも OK なのだ、携帯電話普及初期の頃には、アマチュア無線をやっている OM さん達は、山の上なら電波の飛びが良いはずだから携帯電話は当然何処の山でも大丈夫だろうと思っていた局が多くいたようだが、現実には違った、山頂まで電波の届くアンテナシステムは無かったのだ

初期の頃とサービスエリアが大きく違ってきている、日本一高い「富士山」ではどうなのかと言うと、これが OK なのだ、但し、山頂、山小屋については、山小屋の営業期間のみ利用可、これはキャリア(NTT ドコモ、KDDI・au、ソフトバンク等)の携帯電話の話で、GPS 電話は空が見えていれば、世界中どこでも使える。

では、世界の最高峰「エベレスト」の頂上での携帯電話はどうなんだと言うと、これが OK、これが OK どころか、日本では利用が始まったばかりの最先端の高速・大容量通信「5G」が利用できるのだ、コロナ禍の中、中国が高地のキャンプ地に、山頂もカバーする基地局を建てていた、米国が国内から排除した「ファーウェイ」が設備を担っているという。

5G を誇ったと思えば、宇宙の衛星からの測位技術でも、米国へのライバル意識をむき出しにしている。

2020 年 12 月には、エベレストの標高を 8,848.86 メートルと発表した、米国は GPS (全地球測位システム) を用いた計測で 8,850 メートルとしていた。

世間ではインドが計測した 8,848 メートルが知られるが、精密にセンチ単位ではじき出し、「確定値」と宣言した。

調査には GPS に対抗し普及を図る独自のシステム「北斗」を使った、国内のスマホや自動車の位置情報サービスはもちろん、友好国への技術輸出にも力をいれている、米中覇権争いは今年も世界を左右するようだ。

2020 年 6 月 23 日、中国の衛星測位システム「北斗 3 号」を構成する最後のグローバルネットワーク衛星が打ち上げに成功した、同衛星は 55 基目となる北斗測位衛星で、打ち上げ後は順調に軌道に投入された、これで北斗 3 号を構成する衛星 30 基が全て所定の位置についたことになる。

「北斗衛星測位システム(BDS…BeiDou Navigation Satellite System)」は中国が独自に開発・運用する衛星測位システムで、米国の GPS (Global Positioning System または Global Positioning Satellite)、ロシアの GLONASS (Global Navigation Satellite System)、欧州の Galileo とともに世界の四大衛星測位システムと呼ばれている。

「IN GOD WE TRUST」とは、「我々は神を信じる」という米国家の公式標語だそうで、ドル硬貨に印字されているようだ、アメリカ大統領選挙で、アメリカの民主主義はどうなるのかと心配したが、大統領はバイデン氏で決まった、オバマ氏のような弱腰外交大統領であっては困る、少なくとも対中国に関しては。